

# 考古学研究室報告

## 第 50 集

平原古墳群調査報告 3

2014年度 考古学研究室の足跡

2015

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：中岳（草千里から）  
裏表紙写真：阿蘇の雲海（大観峰から）

## 序 文

本書は第50冊目の『考古学研究室報告』である。第1集が発行されたのは1978年2月のことで、それは甲元眞之先生が熊本大学に赴任された年度に当たる。その甲元先生は昨年度をもって熊本大学を去られたが、その翌年度に第50集という節目を迎えたことになにか不思議な巡り合わせのようなものを感じてしまう。

当初は『研究室活動報告』という書名のもと調査遺跡ごとに報告をまとめるスタイルであった。そのため同じ年度のうちに数冊発行することも珍しくはなかったようだ。それが、1年間の調査成果を1冊にまとめた年報というかたちに変更されたのは1998年3月発行の第33集からで、そのときに書名も現在のものに改められた。

熊本大学考古学研究室では、フィールドマスター（多くの場合大学院修士1年生）の指揮のもと学部2・3年生が中心となって、遺跡の下調べから発掘調査の準備、宿舍設営、現場作業、現地説明会、遺物整理、報告書の執筆・編集・発行までを行うという教育システムをとっている。学生たちには、こうした実践を通じて遺跡を調査することの意味を考え、また地域の人々との語らいのなかから文化財を守り伝えることの意味を考えてほしい。そう願っている。将来考古学の道に進まない学生のほうが多いけれど、そんな彼ら、彼女らにも実際の遺跡や遺物に接することから考古学という学問のおもしろさを感じ、よりいっそうの考古学ファンになってほしい。そう願っている。『考古学研究室報告』はとても小さな冊子であるけれど、そのなかにはこうした私たちの思いが、またそれ以上に学生たちの苦心と努力のあとが詰まっている。だから、途切れることなく積み上げられてきた50冊は相当に重い。これを今後にも継続していかなければならないとつよく思う。

さて、今年度も阿蘇市平原古墳群で実習調査を行った。例年のことながら地元山田地区の方々にはとてもよくしていただき、感謝に堪えない。公民館を宿舍に貸して下さるだけでもありがたいのに、懇親会の開催、二百十日の焼き肉パーティへのお誘い、米や野菜、ピザ、スープ、煮物など数々の差し入れ。阿蘇市教育委員会の皆様からも、現場見学に来て下さる方からも、大学事務部からも、さらには在校生・卒業生からも多くの励ましをいただいていることを思うと、考古学研究室の活動はじつにさまざまな方の支えのもとに成り立っているのだと今さらながら実感する。そうしたすべての方々へ心からの感謝の念を捧げるとともに、第100集を目指して新たな歩みをはじめ我々に対して、今後もかわらぬご指導とご支援をお願いしたいと思う。

2015年1月17日

杉井 健

## 平原古墳群調査報告 3



現地説明会風景 2014/8/30

## 例 言

1. 本書は、熊本県阿蘇市山田字平原に所在する平原古墳群の調査報告書である。本書では、6号墳（平原490番地）の発掘調査および2・3号墳（平原486-2、485番地）の測量調査の成果のほか、1981年に発掘調査された1号墳の調査成果の一部も含めて報告する。
2. 調査期間は、2014年8月18日～9月12日の計26日間である。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、阿蘇市教育委員会の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究B・研究代表者杉井健）の一部を使用した。
4. 調査担当者は、杉井健（熊本大学文学部准教授）と與嶺友紀也（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
5. 平原古墳群に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含めて、次のように調査回数を整理する。
  - 第1次調査 調査年：1981～1983年  
調査内容：1981年 1号墳の発掘調査  
1982・1983年 2～4号墳（4号墳は現在の6号墳に一致）の測量調査  
調査主体：1981年 熊本県教育委員会  
1982・1983年 熊本短期大学（現熊本学園大学）文化財研究会
  - 第2次調査 調査期間：2011年10月14・16・23日、11月1～7日、2012年4月29・30日  
調査内容：6・7号墳の測量調査  
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
  - 第3次調査 調査期間：2012年8月19日～9月15日  
調査内容：6号墳の発掘調査  
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
  - 第4次調査 調査期間：2013年8月18日～9月14日  
調査内容：6号墳の発掘調査  
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
  - 第5次調査 調査期間：2014年8月18日～9月12日  
調査内容：6号墳の発掘調査および2・3号墳の測量調査  
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
6. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
7. 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
8. 第1図は国土地理院発行の5万分の1地形図（八方ヶ岳・菊池・御船・宮原・阿蘇山・高森）、第7図-2は国土地理院ホームページ電子国土Web（<http://www.gsi.go.jp/>）の地図を複製したものである。
9. 平原1号墳の石棺実測図（第9・10図）の原図、および出土遺物（鉄剣・壺）は熊本県教育委員会の所蔵である。石棺実測図、出土遺物の実測図・写真の掲載については熊本県教育委員会の許可を得た。旧阿蘇町教育委員会中庭移築石棺位置の略図（第11図）は阿蘇市教育委員会から提供を受けた。
10. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。福田拓也（阿蘇市教育委員会）、緒方 徹（阿蘇世界文化遺産推進室）、木村龍生（熊本県教育委員会）、檀 佳克（八女市教育委員会）、市原育郎、大田黒元吉、小西 誠、佐伯朋史、佐藤ちはる、日野満司、廣石勝之、阿蘇市山田地区の方々、阿蘇市教育委員会、阿蘇世界文化遺産推進室、阿蘇市山田公民館、熊本県教育委員会
11. 調査参加者は以下のとおりである。杉井健（熊本大学教員）、入江由真・黄沢民・與嶺友紀也（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）、中村聖美・山元瞭平（同文学部4年生）、津田祐美・豊永結花里・秦翔平・幣島莉香・松本夏織・宮崎大和（同文学部3年生）、大隈彩未・白岩加帆・竹村南洋・前田湧生・松浦正朋（同文学部2年生）、嘉戸倫歩（同文学部1年生）
12. 本書の編集は杉井健の監修を受けて與嶺友紀也・入江由真が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

# 本文目次

一 位置と環境	1
1. 地理的環境	大隈彩未 1
2. 歴史的環境	3
(1) 阿蘇の歴史	竹村南洋 3
(2) 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳	幣島莉香 4
二 調査経過	28
1. 過去の調査(第1～4次調査)	前田湧生 28
2. 今回の調査(第5次調査)	松本夏織 29
三 平原古墳群における古墳の分布	杉井 健 31
四 1号墳の石棺	與嶺友紀也 35
1. 1号墳の石棺	35
(1) 石棺の概要	35
(2) 人骨・遺物の出土状況	37
2. 小結	37
五 2・3号墳の測量調査	39
1. 2号墳の現状	津田祐美 39
2. 3号墳の現状	津田祐美 39
3. 小結	黄 沢民 40
六 6号墳の発掘調査	42
1. 墳丘の現状	白岩加帆 42
2. トレンチの設定	松浦正朋 44
3. 調査の所見	44
(1) 東1トレンチ	秦 翔平 44
(2) 墳頂トレンチ	宮崎大和 48
4. 小結	50
(1) 墳丘形態の復元	秦 翔平 50
(2) 墳頂部の状況について	宮崎大和 54
七 遺物	55
1. 1号墳出土遺物	55
(1) 鉄剣	入江由真 55
(2) 竪櫛	松本夏織 55
2. 3号墳採集遺物	豊永結花里 55
(1) 埴輪	55
(2) 土師器	55
(3) 須恵器	56
3. 6号墳出土遺物	豊永結花里 56

(1) 壺形埴輪 (第3～5次調査出土).....	56
(2) 土師器 (第3～5次調査出土).....	60
4. 小結.....	人江由真.....61
(1) 1号墳出土遺物の時期 .....	61
(2) 3号墳採集遺物の時期 .....	61
(3) 6号墳出土遺物の時期 .....	62
(4) 1・3・6号墳の時期的関係について .....	63
八 まとめ.....	與嶺友紀也.....64

## 図 版 目 次

図版 1	1	2号墳の現状 (西から)
	2	3号墳の現状 (南東から)
	3	6号墳の現状 (北西から)
図版 2	1	東1トレンチ全景 (北東から)
	2	東1トレンチ段築テラス面付近断面 (南から)
図版 3	1	東1トレンチ段築テラス面転落石状況 (東から)
	2	東1トレンチ段築テラス面完掘状況 (東から)
	3	東1トレンチ段築テラス面 (東から)
図版 4	1	東1トレンチ全景 (上が西)
図版 5	1	墳頂トレンチ全景 (上が南)
	2	墳頂トレンチ東区 (東から)
	3	墳頂トレンチ西区 (西から)
図版 6	1	墳頂トレンチ東区西壁断面 (東から)
	2	墳頂トレンチ東区南壁断面 (北から)
	3	墳頂トレンチ西区北壁断面 (南から)
図版 7	1	1号墳出土鉄剣
	2	1号墳出土竪櫛 (左:第26図掲載竪櫛 右:竪櫛片の内面)
図版 8	1	3号墳採集須恵器 (上:外面 下:内面)
	2	3号墳その他採集遺物 (左:土師器 右:埴輪)
	3	6号墳出土壺形埴輪 (1)
図版 9	1	6号墳出土壺形埴輪 (2)
図版 10	1	6号墳出土壺形埴輪 (3)
	2	6号墳その他出土遺物 (左:土師器 右:赤色顔料塗布壺形埴輪)

## 挿 図 目 次

第1図 阿蘇地域の地形と平原古墳群の位置…………… (安田編2013より) ……………	1
第2～4図 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳の位置(1)～(3) …………… (大隈・白岩・前田製図) ……	6～8
第5図 墳頂トレンチ発掘調査風景……………	29
第6図 平原2号墳測量調査風景……………	29
第7図 平原古墳群古墳分布図の比較…………… (杉井作成) ……………	31
第8図 平原古墳群南尾根グループ測量図……………	33・34
第9図 1号墳石棺蓋石実測図(1:東側蓋石 2:西側蓋石) …………… (與嶺製図) ……………	35
第10図 1号墳石棺実測図・墓壇断面図・遺物出土状況図 …………… (宮崎製図) ……………	36
第11図 石棺移築場所メモ…………… (與嶺製図) ……………	37
第12図 山田石棺の位置(左が北)…………… (與嶺撮影) ……………	38
第13図 山田石棺の現状(西から)…………… (與嶺撮影) ……………	38
第14図 山田石棺の現状(北から)…………… (與嶺撮影) ……………	38
第15図 2・3号墳測量図(上:3号墳 下:2号墳)……………	41
第16図 6・7号墳測量図(上:7号墳 下:6号墳)……………	43
第17図 トレンチ配置図…………… (杉井作成) ……………	44
第18図 東1トレンチ平面図・断面図・立面図…………… (秦製図) ……………	45・46
第19図 段築1段目の葺石…………… (杉井撮影) ……………	48
第20図 段築テラス面の小礫…………… (杉井撮影) ……………	48
第21図 段築2段目の葺石…………… (杉井撮影) ……………	48
第22図 葺石の構築単位…………… (松浦製図) ……………	49
第23図 墳頂トレンチ平面図・断面図(下は西区・東区関係図) …………… (宮崎製図) ……………	51
第24図 6号墳墳丘形態復元図…………… (杉井作成) ……………	53
第25図 1号墳出土鉄剣実測図(アミは木質部)…………… (入江製図) ……………	55
第26図 1号墳出土豎櫛実測図…………… (松本製図) ……………	55
第27図 3号墳採集土師器・須恵器実測図…………… (入江製図) ……………	56
第28図 6号墳出土壺形埴輪実測図(1)…………… (豊永製図) ……………	57
第29図 6号墳出土壺形埴輪実測図(2)…………… (竹村製図) ……………	58
第30図 6号墳出土土師器実測図…………… (竹村製図) ……………	60
付図 図版写真と実測図番号の対応…………… (大隈製図)	



## 表 目 次

第1～14表	九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表（1）～（14）	
	……………（幣島作成）……………	9～22
第15表	平原古墳群基準点の現場座標……………	（杉井作成）……………30
第16表	平原古墳群基準点の国土座標（世界測地系）…	（杉井作成）……………30
第17表	6号墳墳丘各トレンチの計測値……………	（秦作成）……………52
第18表	3号墳採集遺物一覧表……………	（豊永作成）……………56
第19表	6号墳出土壺形埴輪一覧表……………	（豊永作成）……………59
第20表	6号墳出土土師器一覧表……………	（豊永作成）……………61